

日吉台地下壕保存の会

会 報

第46号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ: 白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760

その他のお問い合わせ: 喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

第6回横浜・川崎平和のための戦争展

日時: 1998年7月18~19日(土・日)

場所: 横浜駅西口 かながわ県民センター

展示: 両日とも10.00~18.00

講演: 19日のみ

11.00~12.30

13.30~14.00

14.00~15.15

15.30~17.00

若者による発表

戦跡保存全国ネットワーク

沖縄大会参加者の報告

十菱 駿武氏

戦争体験を残す

小島 清文氏

慶応義塾と太平洋戦争について

~上原 良司のことなど~

白井 厚氏

ビデオ上映: 日吉台地下壕・登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊地下壕

なお、上原良司氏の姉妹の方が出席を予定しておられます。

目次

ページ

お知らせ	1	1998年度予算	5
第6回横浜・川崎平和の ための戦争展	2	1998年度活動方針	6
第10回総会の記	3	連合艦隊司令部跡日吉台地下壕 の保存をすすめる会会則	7
1997年度活動報告	4	連載日吉台地下壕	
1997年度会計報告	5	当時の関係者の思い出話	24 8

第六回横浜・川崎

平和のための戦争展

運営委員

亀岡 敦子

一九九二年二月に、川崎市平和館で最初の「平和のための戦争展」を開いた時は、ここまで回を重ねることになろうとは、想像できませんでした。川崎・横浜と会場を交互に移した事と、寄り合い世帯の実行委員会で運営にあたった事、無理をしないと決めた事、何よりもテーマを「私の街から戦争が見える」という点に絞った事などが、継続の理由ではないかと思われまます。開催期間も三回目までは、展示場を借りた日数全部を使ったので、平日は入場者が少ないのに、人手は必要と、やりくりばかりが大変でした。四回目と五回目は土・日・休日だけに限定したので負担も軽く、楽しただけが残りました。

展示内容は、基本を「日吉台地下壕」「登戸研究所」「蟹ヶ谷通信隊地下壕」に据

えています。工夫も重ねてきました。特に昨年の特攻隊員上原良司さんの遺品や写真で構成したコーナーは、参加者の心に強く訴えるものがあったようです。目元の涼しい

若者の写真と、深い知性と豊かな人間性に溢れた『所感』の文字は、何万語の説明よりも明白なメッセージを伝えていきます。私達は『上原良司』という慶応で学び、一九四四年一〇月の神宮外苑の学徒出陣雨中の行進に加わり、四五年五月、特攻隊員として知覧から出撃し沖繩で散った若者に

スポットをあてる事により、何千・何万の死んでいった若者の悲しさと虚しさを身近かに引き寄せることになったのです。二人の妹さんや由縁の方々が相集い遺書の朗読に耳を傾けた時、声高に『戦争反対！』を叫ぶより、平和への祈りが満ちたように思われました。

また、いつものように若者による発表も、神奈川大学・山梨学院大学・慶応大学の各々の学生が、自分の視点から調査研究の成果を発表し、無関心な若者が多いと嘆く大人達に、現代の青年も捨てたものじゃないと思わせました。そして次の世代へ伝える事の責任を痛感しました。

東京芸術座の俳優さんを中心とした朗読劇や憲法を方言で読む、という新しい試みは感動的で涙を浮べる方も多かったのです。

平和のための戦争展は皆様のお寄せくださる賛助金で運

営しておりますが、地道にその成果をあげているように思われます。

今年も七月一八、一九日の両日、横浜駅西口近くの「かながわ県民センター」で開催します。これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示の外に、上原良司特別展を計画しております。

展示のほか、不戦兵士の会の小島清文氏や慶応名誉教授白井厚氏の講演があり、戦跡保存全国ネットワーク沖繩大会参加者の報告があります。

賛助金のお願いと、ご来場のお願い、そして、もしお手伝い頂ければ、とこれもお願い申し上げます。当日だけでも結構です。ご連絡をお待ちいたします。

(横浜市港北区下田五十二〇―一五 亀岡敦子)

第一〇回

総会の記録

去る四月二十五日第一〇回総

会が開催された。総会をお知らせする会報四五号に規約改正案を掲載したこと、地下壕周辺の現状写真と文を載せ、閉会後に座談会を予定したこともあつて、遠くから出席された方もあつた。

総会では一九九七年度活動報告・会計報告・同監査報告が承認され、規約改正の承認がなされたあと、新しい会長、運営委員が選出された。

一九九八年度活動方針・予算案も承認され、無事総会が

1998年度日吉台地下壕
保存の会 会長・副会長・
運営委員・会計監査

会長 寺田 貞治

副会長 大西 章

鈴木 順二

運営委員 新井 博

新井 尚子

岡上 子

岡 美登里

喜田 啓

酒井 康雄

佐相 邦子

白鶴 基夫

谷藤 孝治

遠山 武子

都倉 正

中 林 ちづ

茂 呂 秀宏

岩崎 子

野 喬

山 高行

森

(オブザーバー)

会計監査

天野 森

終了したところで、退任される東郷副会長、蛟島会長の挨拶があつた。お二人とも寺田事務局長の功績を讃えながら、仕事を一人で抱え込まないで分担するようにとのお話であつたが、言葉の強さが、次に挨拶する寺田新会長を怒らせてしまった。寺田新会長はそんなことを言われてまでこの会を継続していきたくはない。解散してしまったほうがよいとまで発言されて、あわやと思われたが、取りなしの発言や、事情説明などがあり、本年はいろいろなことの見直しをしていこうと言うことで落ち着いた。出席された方は突然の成行きに驚かれたことと思う。

これまで保存の会の運営は主として事務局長と幹事がやってきました。殆どの人が仕事の合間にやるために、どうしても連絡もれや、参加の度合いの違い、理解度の違い、根本的な考え方の違いなどで、不信感が生じやすく、お互いに批判的になってしまふことがあつた。良い見方をすれば、忙しい中をここまでだけはきちんとやってくれる、悪くするとこれ以外は何もやってくれないとなつてしまふ、不平ばかりがつのることになった。

保存したいという使命感とやる気があるから万障繰り合せ幹事会等に出席したり、会の仕事に励むわけで、その気持ちをも大切にしていかなければ会を継続することはできないと思う。

一番大切な会費を納めてくださる会員が六〇〇名もいることを忘れてはならないし、県や市や慶応義塾とこれまでに築いてきた関係や、全国のネットワークの方々との交流なども大切にしていかなければならない。

十年目のハプニングは、はからずも保存の会の問題点を浮きぼりにした。改められることは改め、可能な方法を見つけたし、これからも保存の会を継続していく努力が大切だと思う。みなさまの声を聞いてほしい。(文責中沢)

1997年度活動報告

1997年度は、国内では沖縄県名護市に米軍ヘリポートを建設する計画をめぐる激しい論争が繰り広げられ、住民投票が行なわれました。また、世界では、アメリカのイラク制裁と称して、戦争の瀬戸際まで行きました。いつまでたっても戦争の種は尽きません。私たちの力は、まだ微々たるものですが、その種を摘みとり、平和な社会をつくることを願って活動してきました。

1997年度の活動で特筆すべきことは、長野県松代町で『第一回戦争遺跡保存全国シンポジウム』が開かれ、『戦争遺跡保存全国ネットワーク』が結成され、戦争遺跡保存の運動が全国的に盛り上がってきたことです。横浜でも、赤れんが倉庫に平和資料館を『ピースミュージアムよこはま』実行委員会が、横浜の文化人の呼びかけで結成され、多くの文化人の賛同も得て1万人以上の署名を短期間に集め、横浜市長に『ピースミュージアム』建設の要望書を提出しました。

私たち「日吉台地下壕保存の会」は、例年同様、6月に『横浜川崎平和のための戦争展97』を川崎市と川崎市教育委員会の後援人補助金を得て開催するとともに、5月の『97平和のための戦争展inよこはま』や8月の『97平和のための戦争展かながわ』にも参加し、日本ならびに世界の平和を願って活動してまいりました。これらの様子は、朝日新聞や神奈川新聞などマスコミでも報道されました。現在、「保存の会」は、個人会員、団体会員を含め約600名で運営しております。運営委員会4回、幹事会8回開催し、会報は4回発行しました。また『太平洋戦争と慶應義塾』を発行しました。地下壕見学会は30回におよび、約750名の人々を案内しました。

こうした活動にもかかわらず行政の動きは鈍く、まだまだ私たちの運動は必要です。日吉台地下壕に関して、神奈川新聞によると横浜市教育委員会の文化財課は、①どのような活用、市民への還元ができるのか疑問がある、②価値を裏打ちする資料が乏しい、③安全性に疑問がある—といった問題を指摘しています。私たちは、これらの指摘に対して、更に詳しい調査・研究をしながら、反論し答えていかなければなりません。市教育委員会は、1998年度に行なわれる文化庁の近現代遺産調査で、横浜市の候補の一つとして地下壕をリストアップする予定だが、仮に文化遺産に指定されるとしてしても2004年以降になる見込みだといっています。私たちはさらに一層、地下壕の保存についての実績づくりの活動を重ねる必要があります。

以上

1997年度決算報告

(単位は円)

	1997年度予算	1997年度決算	備 考
収入の部			
会 費	275000	484000	328名、5団体
カンパ	0	220	
事業益	0	328134	本、冊子、絵葉書等
雑 費	0	3900	利息等
繰越金	590855	590855	
合 計	865855	1407109	
支出の部			
会議費	80000	19056	各種会合費
事務費	30000	21007	事務用品費
印刷費	150000	28170	会報等
通信費	350000	185890	会報郵送代等
資料費	50000	0	書籍等等
謝 礼	50000	21986	講演・調査等
交通費	100000	116610	交流会・賛同金・調査等
予備費	55855	420000	本の発行代金
合 計	865855	812719	
差引残高	0	594390	

以上の通り報告します。 日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印
この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

1998年4月18日

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

1998年度予算

(単位は円)

収入の部			支出の部		
会 費	338000	328人×1000円 5団体×2000円	会議費	50000	各種会合費
カンパ	0		事務費	50000	事務用品等
事業益	0		印刷費	100000	会報等
雑収益	0		通信費	200000	会報郵送費等
繰越金	594390		資料費	50000	書籍等
			謝 礼	50000	講演、調査等
			交通費	200000	交流会、調査等
			予備費	232390	
合 計	932390		合 計	932390	

[補足説明] 収入の会費収入は、1997年度の会費納入者が約328名、団体が5団体なので、

$1000円 \times 328名 + 2000円 \times 5団体 = 338000円$ とした。

1998年度活動方針

昨年度は、日吉台地下壕に関わる民間の土地が、遺産相続のためマンション業者に売却されました。幸いにして地下壕を避けて売却していただきました。今年になって、また別の土地がやはり遺産相続のため不動産業者に売却され、開発されようとしています。このままだと、貴重な緑とともに貴重な遺跡もなくなっていく運命にあります。行政のほうも、史跡として保存したい意志を持っていても、不景気が続き国も県や市も深刻な税収不足で、文化財関係に振り向けられる財源も限られており難しい状況にあります。

私たちは、昨年度に引き続き、絶えず横浜市や神奈川県並びに文化庁、慶應義塾及び地域住民に、日吉台地下壕の保存を訴えると共に、連絡を取り合い、一刻も速く保存が決まるよう活動を推進していかなければなりません。また県内、国内の文化財関係者や戦争遺跡に関わる市民団体とも連絡を取り合いながら、力を合わせて保存運動を盛り上げていく必要があります。

そのため、私たちは下記の運動を進めます。

- ①慶應義塾、地域の人々と日吉台地下壕の保存についての話し合いを深め、史跡として保存されるように横浜市や神奈川県、文化庁など関係当局に働きかけていく。
- ②学習会・見学会・シンポジウム・平和のための戦争展などを開催し、日吉台地下壕の保存の必要性をアピールし、世論を喚起する。
- ③『戦争遺跡保存ネットワーク』のような戦跡の保存をめざす全国の市民団体と積極的に交流し、共に戦争遺跡の保存運動を盛り上げていく。
- ④日吉台地下壕に関する調査・研究ならびに資料・遺品の収集を進め、史跡としての意義や価値の評価を高めるように努力する。

以上のような活動を通して、日吉台地下壕の整備・保存並びに資料館建設の実現にむけて努力していきます。会員の皆様のなお一層のご協力と、活動へのご参加をお願い致します。

以上

連合艦隊司令部跡日吉台地下壕の保存をすすめる会会則

- 第1条（名称） この会は「連合艦隊司令部跡日吉台地下壕の保存をすすめる会（略称：日吉台地下壕保存の会）」という。
- 第2条（目的） この会は次のことを目的とする。
1. 日吉台地下壕を平和記念の史跡として保存するための運動をすすめる。
 2. 日吉台地下壕に関する調査、研究をすすめる。
 3. 日吉台地下壕を史跡として保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようにする。
 4. 日吉台地下壕の保存と共に、戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館（仮称）」を建設する運動をすすめる。
- 第3条（会員） この会は会の目的に賛同し、会費を納入する個人ならびに団体により構成される。
- 第4条（事業） この会は次の事業を行なう。
1. 日吉台地下壕の保存に関する資料、パンフレットなどを作成し普及する。
 2. 日吉台地下壕の調査、研究をすすめる。
 3. 日吉台地下壕の見学案内、学習会、講演会、シンポジウムなどを行なう。
 4. 日吉台地下壕の保存および「平和記念資料館（仮称）」の建設について関係諸機関に働きかける。
 5. その他、会の目的達成のために必要な事業を行なう。
- 第5条（運営） この会は運営委員（10名前後）によって構成される運営委員会によって運営される。運営委員は立候補し、総会において承認を得る。
- 第6条（組織） 運営委員会から会長及び副会長を選出し、総会に報告し承認を得る。会長（1名）は、会を代表し、運営委員会を統括し、総会および運営委員会を招集する。副会長（若干名）は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 第7条（事務局） 運営委員会には事務局をおく。事務局は書記と会計で構成される。その細則は別に定める。
- 第8条（会計監査） この会に会計監査（2名）をおく。会計監査は会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第9条（総会） 総会は年に1回開き、活動報告および決算の承認、活動方針および予算の承認、運営委員の選出、会長および副会長の承認、その他必要な事項について決議する。必要に応じて臨時総会を開くことができる。
- 第10条（会費） この会の経費は会費とその他の収入によってまかなわれる。会費は年間で、個人は1口1000円、高校生以下1口500円、団体は1口2000円で、1口以上とする。
- 第11条（顧問） この会には運営委員会の推薦によって顧問をおくことができる。顧問は運営委員会の諮問に応じて必要な助言を行なう。
- 第12条（付則） この会則は、1989年4月8日に成立し施行される。
この会則は、1990年4月7日に改正され施行される。
この会則は、1998年4月25日に改正され施行される。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 24

終戦前後 3

地元の方々に伺います。

(ききて…寺田貞治)

★A1氏・宮前

終戦の時、海軍の人が右往左往していた。缶詰など隠しながら持ち帰った。伊東三郎第三〇一〇設営隊長は戦犯になるのではないかと心配していた。

海軍が引上げた後、近所の人々が壕の中に入って、机や椅子などあるものみな、それぞれ家に運んでいた。

米軍の進駐がはじまり、慶応や岡本工業(現ユニー)、航空研究所(現矢上の警察学校)にやって来た。

日吉駅周辺は、全く基地の街のようであった。米軍相手

のパンパンが大勢たむろしていた。パンパンと米兵が肩を組んで歩いているのは日常茶飯事であった。我が家の裏山にもパンパンがいた。娘のいる家には、米兵が必ず何かを持ってくる話にきた。娘二人がパンパンになり、親は米軍の物資を横流しをして贅沢していた家もあった。また米兵の衣類をクリーニングしていい仲間になり米国に行きた人もいた。みんな食べて生きていくのに精一杯の時代であった。

★K1氏・箕輪

戦後、海軍が去った後、地下壕の中から便箋や重油などを持出した人々がいた。重油を持出した人が警察に引張られ罰せられたことがあった。正直者が馬鹿をみる時代であった。供出の米を闇に流して儲けた人もいた。

米軍が慶応に進駐してきた時、地下壕の出入口から少し入った所を爆破した。日本兵が壕から出てきて襲うかも知れないと出入口を塞ぐためであったという。

★M氏・日吉本町

終戦後、マッカーサーが来る時、不逞分子がいて騒ぎを起すとまずいので、大隊全部憲兵になって、護衛した。

★A2氏・宮前

終戦は勝浦で迎えた。昭和二年八月二三日に帰ってきた。当時上等兵曹であった。

米軍が慶応に進駐したが、時々、米軍人が家の中に入ってきて怖かった。

★I氏・日吉本町

私は食品や炭などの配給品を取扱っていたが、米軍人が進駐軍の品物と店の品物を取替えると言ってきたことがあった。

米兵相手の売春婦(パンパン)が町に部屋を借りて商売をしていた。

また、男も進駐軍に勤めて、油や食糧を譲り受け、闇で売って儲けた人や、米軍のラジオの部品を取扱ったり、米軍相手にクリーニング屋を開いたりしてボロ儲けをした人が多くいた。

或いは、大地主でも土地を切り売りして浪費し、没落していった人もいるかと思えば、土地を上手に動かして儲け、のし上がってきた土建屋さんがいたりした。

★石森一成氏・三木組関係者

我が家の隣りには韓国人の飯場があり、一五〇人位の人がいた。戦後これらの人は、本国に帰った人もいるが、川崎の木月・加瀬や横浜の網島に残っている人も多いのではないか。

(生協ニュース教職員版第四九、五〇号より抜粋転載)